

小、中学生の学力は主要2教科で高いレベル

本年4月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果をお伝えします。東川町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者・地域の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

今年4月、全国で実施した文部科学省「全国学力・学習状況調査」の結果、東川町の児童、生徒は読書が好きで、主要2教科の国語、算数、数学各教科いづれも全国の平均レベルより理解度が上回っていることが分かりました。

町内の小学6年生（4校、73人）と中学3年生（1校、69人）を対象にして実施調査しました。小、中学生ともに、教科全体で全国、全道平均を上回っています。小学生は総じて国語教科の理解度が平均を上回り、中学生は数学教科の理解度が上回っています。

学校への質問項目では、小学校では「資料を使って発表が出来るように指導している」「学校全体の

学力や課題について全教職員で共有している」の各項目で全国、全道平均に比べて対応が伸展しています。

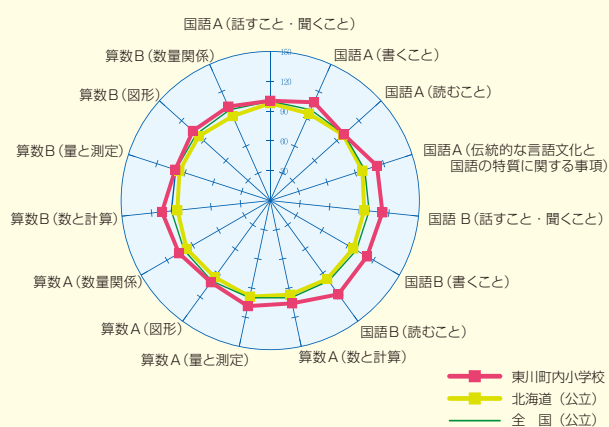
中学校では、「国語教科で漢字、語句など基礎的事項を定着させる授業を行った」「生徒自身で課題をまとめて表現するなど、学習活動を学ぶ研修をしている」の両項目で全国、全道に比べて進展がみられました。

各学校で実施している朝読書、読み聞かせ、学校図書館の活用が児童、生徒の理解度伸展に奏功している、と分析しています。

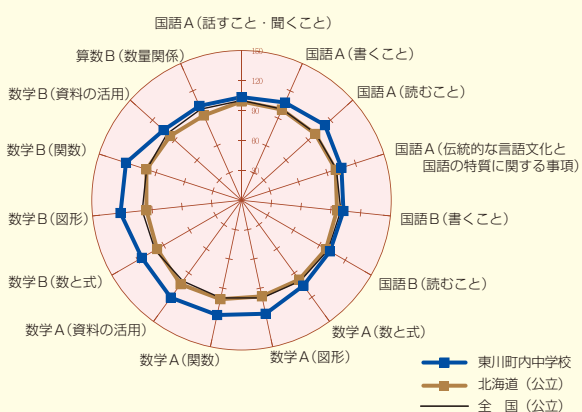
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

東川町内小学校の状況



東川町内中学校の状況



調査概要(文科資料より)

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年の全児童
- 中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全生徒

3 調査の内容

- ①教科に関する調査(国語・算数・数学)
 - ・主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A、理科]
 - ・主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B、理科]
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

道教委H28HP

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/gakuryoku28/top.htm>